

受け継がれる志

第37回



作家 佐野眞一 (昭和40年生)

作家 宮部みゆき (昭和4年生)

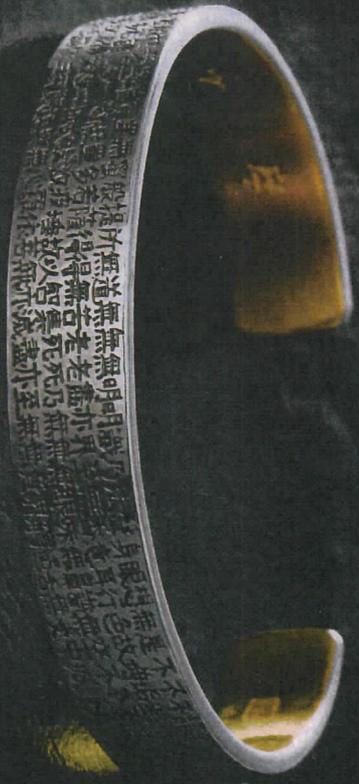
作家 平藤一利 (昭和49年3月)

工芸士 健一郎作

純銀 純金

般若心経腕輪

貴方のお手元を華麗に彩る、
燦々とした純銀の輝き。
そして、内側にきらりと光る



幸福とご加護を身近に願う名作

■豪華に輝く純金と純銀。そして精緻に刻印された、災厄を滅つという般若心経…。本作品「般若心経腕輪」は、鍛金と彫金の伝統技で手作りした見るからに贅沢な逸品です。

■作者は江戸彫金の技を受け継ぐ伝統工芸士の泉健一郎氏。東京都知事賞、ワールドゴールドカウンスシル賞など多数の受賞歴を誇る、数々の要職を務める現代の名匠です。

■唱える者を加護し、開運隆盛を授ける般若心経の266字をなんと泉氏が総手彫り。持ち主の幸福を祈って、一字一字原形を緻密に彫金。さらに内側の純金にも般若心経の冒頭10字を刻印するこだわりがあります。

■純金、純銀を鍛造した延べ板の重厚さが味わえる傑作。一味違ったおしゃやかな腕輪として、いつでもご加護いたただけるお守りとして、老若男女を問わずご愛用ください。



華やかな輝きがお手元を彩ります

作家録入り
お申し込み方法
またはFAXで
お申し込みください。

料金は送料は約15ヶ月後まで返
現品到着後10日以内で、
分制私は信販会社のお取
扱います。現品到着後8日
以内から返金をお取り、送
料自己負担です。

〒104 8231 東京都中央区銀座一三三
東京書芸館 美術部
TEL 03(807)577

■頒布価格(税込)
月々 八五三円×24
一括 一七、五〇〇円

3種類のサイズをご用意
S: 腕回り約12×14cm
M: 腕回り約15×17cm
L: 腕回り約18×20cm

■作家直筆の
箱書と落款入
りの桐箱つき。
■各限定10。

銀製「招福根付」を無料進呈!!

今回「般若心経腕輪」をお求め
の方には、銀製の「招福根付」を無
料進呈します。携帯や財布に添え
て、おしゃやかに運福祈念!



東京都立墨田川高校

墨田川「墨色の綻」が主字。花びらの大枠には「朝」として堂に向上を展まつける」という意味が込められているとされる

庶民の最学府だといふ“誇り”があった。それは“ブライド”ではなくあくまでも“誇り”

「テラ子（山の手の子）にビヤで空気の読める子が多かった」と胸を張る3人。七高生の遊び場「向島百花園」にて



てね。高校の教師にしておくの
はもつたいないほど学識のある
先生でした。

宮部 はい。印象に残っている
のは、小中学校通じてそれまで

一度も褒められたことがなかつ

たのに、七高の現国の先生だけ

が「お前は文字があるから、文

章で食うことを考えてみない

て、怖かったですよ。

宮部 後に私が日本推理作家協

会に入つたときは、中島先生が

理事長をなさっていました。

佐野 高校時代の僕は、校門を

出たところにある区立の寺島図

書館に入り浸りて、本ばかり読

んでいました。安岡喜太郎とか

吉行淳之介とか手当たり次第。

ばに私娼屋の玉の井でしょう。

花街の向島はお隣りだし。教育

のかなあ。

宮部 私も通っていました。と

言うのも七高の図書館には松本

清張の『点と線』以外、ミステリ

り小説がなかつたから。そう

から笑。

佐野 昭和33年に赤線は廃止さ

れますが、独特の雰囲気があり

ましたねえ。よくきれいなお姉

さんたちが歩いていて……。

半藤 そう言えば、商店名から

して振るつていた。玉の井から

半藤 墨田川高校OBにはやた
らと作家が多いんですが、3人
あり、両国、小松川が同じ61群
だったんです。そのなかからた

またま振り分けられたのが七高

でした。もし他の学校に入つて

いたら、今とは違う人生を歩ん

できて嬉しさも一入です。

宮部 はい。しかも今日は高校

揃うのは初めてですね。

輩ですが、当時は学校群制度が

あり、両国、小松川が同じ61群

の両国、文化の小松川、遊びの

墨田川と称されるほどの校は

カラーが違いましたから。

佐野 そりや言いえ妙だ（笑）。

半藤 私のころは軍国主義一色。

特にキツかったのは毎週水曜日

のフロンでした。全校生徒を

10人ずつグループに分けて、金

町から七中まで走らされた。

宮部 十数キロあります！

半藤 ええ。距離は長いし、落

伍者を出しちゃいけないので最

後は体力のないヤツを担いで走

るんですから、相当辛かったです。

高」と言います。京成線で通学

していましたが、奥船駅に降り

た途端、近くにあった石鹼工場

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

佐野 私は古典の奥深さを中島

先生から教えられたんです。漢

文や古文を音吐朗読と読み上げ

宮部 私は佐野さんより14年後

いを出しますね。

の話をするとまつきにその句

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

た途端、近くにあった石鹼工場

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

佐野 私は古典の奥深さを中島

先生から教えられたんです。漢

文や古文を音吐朗読と読み上げ

宮部 私は佐野さんより14年後

いを出しますね。

の話をするとまつきにその句

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

た途端、近くにあった石鹼工場

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

佐野 私は古典の奥深さを中島

先生から教えられたんです。漢

文や古文を音吐朗読と読み上げ

宮部 私は佐野さんより14年後

いを出しますね。

の話をするとまつきにその句

の匂いがぶんと漂つて。七高

生がいて……。

クールな男の ホットなシューズ

さつとひと拭き
お手入れ簡単!

すべりにくい
スベイクオリ
特殊防滑ソール

どろがらしない
カフサイシン効果

軽量!



完全防水
設計

高機能消臭材
CG-X使用!

ネット通販可 Mail Order
ネット通販は下記URLから。
<http://www.chiyodagr.jp>

- | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| NO.739
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black
Dakleweem/Khaki | NO.742
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.720
K5,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.722
K5,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.730
K5,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.731
K4,753 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.743
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.746
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.747
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.748
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.749
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black | NO.750
K3,900 (税込)
24.5-27.0, 28.0cm
Black |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

Red Pepper
LIFE IN THE FOOT

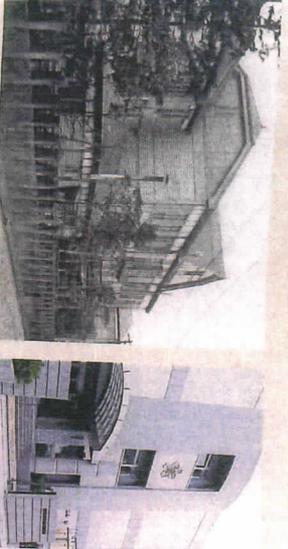
SHOE PLAZA

東京靴流通センター

ザ・シューズ

靴チヨダ

※一部商品の写真の色は実際とは異なる場合があります。



戦前の東京府立第七中学校時代の校舎。この木造校舎は空襲により焼失してしまつた。昭和7(1932)年撮影

平成13(2001)年に完成した第2校舎。3年生の教室、連絡通路等などがある

【東京都立墨田川高等学校沿革】
大正10(1921)年に東京府立第七中学校として設立される。大正12(1923)年の関東大震災では生徒の6割が被災した。大正14(1925)年に制定された校歌は幸田露伴が作詞したもの。昭和18(1943)年の都制施行により、都立第七中学校と改称。昭和20(1945)年5月の空襲により全校舎が焼失し、昭和23(1948)年4月の新

校舎落成まで都内の学校を転々とした。同年の学制改革で都立第七新制高等学校となる。昭和28(1950)年に都立墨田川高等学校と改称し、現在に至る。約2万5000人の卒業生の中には、ノンフイクション作家の枝川公一氏、THE ALF EELのメンバーで同校のフットボール部会初代会長だった坂崎幸之助氏がいる



昭和17(1942)年9月4日の体育祭で行われた御前進(創立六十周年記念誌より)



高校時代の佐野氏。1965年の卒業アルバムより

表通りに出たところに瀬戸物屋とか下駄屋があつて、その名も万石屋と金玉屋でした。佐野 わはは。半藤さん話を作っているでしょう(同爆笑)。高生は群れたがなかつたし、宮部 確かに「これが青春だ」みたいな爽やかな青春の舞臺に似つかわしくない場所でもね。佐野 生徒には町工場、鉄工所、りませんでした。

そうした零細工場の社長や職人の偉が多かつたでしょう。否が最高学府ではないけど庶民の最で妙に大人びていた。だから、半藤 “誇り”はありましたよね。最近使われなくなつたけど一身の宮部 “ブランド”ではなくあくまでも “誇り”ですぞね。

半藤 それに、これは疎開してわかつたんですけれど、実際学問のレベルは相当高かつたんですよ。なんだからだいたいでも東京

のチンパンスクールの佐野 人間的に底光りするよなのが多かつたと思うんです。最近使われなくなつたけど一身の佐野 “ブランド”という言葉があるでしょう。牽強附会かもしれないけど、そういう実感を伴う言葉が息づく地域だからこそ、多くのモノ書きを輩出したんじゃないでしょうか。

現在の体育祭の風景。体育祭では「旗」と呼ばれる3年間で変わらない同じチームで勝負を争う
構成・増田明代 撮影：伊藤葉寛 取材協力：島田健弘